

家畜衛生週報

ANIMAL HYGIENE WEEKLY

No.3924 農林水産省消費・安全局 畜水産安全管理課、動物衛生課 2026. 10. 13

・家畜衛生レポート（山梨県）	313
・第66回全国家畜保健衛生業績発表会演題（青森県）	315
・動物用医薬品再審査結果通知（令和8年10月）	320

☆家畜衛生レポート（山梨県）

山梨県西部家畜保健衛生所

1 はじめに

山梨県は本州のほぼ中央に位置し、県土面積の約8割を森林が占め、周囲を急峻な山々に囲まれています。北東部には秩父山塊、西部に北岳、間ノ岳等の3,000m級の山々からなる南アルプス（明石山脈）、南部には世界遺産に認定された日本一の高峰富士山、そして北部には八ヶ岳、茅ヶ岳が広い裾野をひいています。これらの山地は、山岳、森林、湖沼、渓谷などのすぐれた景観に富み、富士箱根伊豆国立公園、秩父多摩甲斐国立公園などの自然公園にも指定されています。その中央に広がる甲府盆地は東側に笛吹川、西側に釜無川が流れ盆地の南端にて合流し富士川となり、肥沃な扇状地を形成しています。甲府盆地の気候には、昼夜や夏冬の気温較差が大きい、年間降水量が少なく日照時間が日本一長いなどの特徴があり、その特徴に適した果樹栽培を中心に農業は発展してきました。令和6年の農業生産額実

績約1,240億円の62%を果樹が占め、ブドウ、モモ、スモモは全国一の生産量を誇っています。一方、畜産については果樹・野菜に次いで生産額第3位となっており、149億円で全体の12.0%を占めています。自然豊かな山梨県において、畜産農家が丹精込めて育てたブランド畜産物としては、牛では「甲州牛」、「甲州ワインビーフ」、豚では「甲州富士桜ポーク」、鶏では「甲州地どり」、「甲州頬落鶏」が挙げられますが、すべて甲州をつけた名称とし、「甲州統一ブランド食肉」として売り出しています。

2 管内畜産の概要

山梨県には2か所の家畜保健衛生所があり、当所は県西部の11市町（6市5町）を管轄区域とし、北と西は長野県、南は静岡県に隣接しています。

令和7年8月末時点の管内農家戸数・飼養頭羽数は、酪農13戸：679頭、肉用牛39戸：3,428頭、養豚10戸：6,566頭、採卵鶏（100羽以上）29戸：497千羽、肉養鶏（100羽以上）10戸：354千羽となっています。管内北西部に位置する北杜市は草地資源に恵



山梨県西部家畜保健衛生所管内図

まれた県下有数の畜産地帯です。また、同市にある
県立八ヶ岳牧場では県所有の黒毛和種繁殖牛200頭
を飼養し、県内肉用牛農家への産子販売により甲州
牛の生産拡大にも寄与するとともに、県内酪農家・
肉用繁殖農家からの受託放牧を実施しています。

3 組織体制、業務概要

所長、次長、防疫薬事課（7名）、保健指導課（6名うち保健指導課長は次長が兼務）、庶務（1名）、令和7年度より当所に配置された農業革新支援スタッフ（普及指導員）（1名）、計16名（うち会計年度任用職員3名）で業務を行っています。

防疫薬事課では、家畜伝染病の発生予防とまん延防止のための家畜疾病の検査、衛生対策指導や豚熱ワクチン接種、特定家畜伝染病関連の防疫演習、長野県・群馬県両家畜保健衛生所との県境防疫会議等を行うとともに、動物薬事・獣医事関連業務を実施しています。

保健指導課では、家畜衛生技術指導事業や畜産物
安全性確保対策を中心とした調査・検査・指導を実
施する一方で、畜産環境保全指導、経営指導、酪農



アニマルウェルフェア認証作業

家・肉用牛農家の繁殖管理指導や、令和３年度に県が独自に創設した「やまなしアニマルウェルフェア認証制度」の認証取得の推進にも取り組んでいます。また、家畜伝染病の発生予防のため、飼養衛生管理基準の遵守指導や有事の際の埋却地確保について、農家への指導にも取り組んでいます。

令和7年度より配置されている農業革新支援スタッフは、保健指導課と連携して農家の経営指導や担い手の確保・育成、自給飼料生産の技術支援とともに畜産環境保全指導等にもあたっており、当所にて資金・補助金制度の活用など経営面にも踏み込んだ幅広い農家のサポートを行っています。



埋却作業についての研修会

4 管内養豚場における豚熱発生事例

本県は令和元年10月にワクチン接種地域に指定され、数日後に接種開始を控えた段階に、管内養豚場で豚熱が発生、全頭（890頭）の殺処分、埋却等の防疫措置を実施しました（当該農家はその後廃業）。

また、令和3年5月に発生した事例（約2,700頭殺処分）では、発生後の早い段階で後継者から経営再開の意思が示され、畜産関係者で支援体制を構築しました。資金計画は県畜産課と（公社）山梨県畜産協会が、再発防止のための衛生対策は当所が主体となって指導にあたりました。また、豚の導入計画は県畜産酪農技術センターが中心となって進め、令和4年5月から経営を再開、順調に飼育頭数を増加させています。

豚熱や高病原性鳥インフルエンザなどの特定家畜伝染病については、引き続き警戒が必要な状況です。有事の際には関係機関と連携して迅速な初動対応が重要となるため、毎年、県職員や県関係機関等を参集した防疫演習を、より多くの方が参加できるようにweb配信・録画を併用したハイブリッド形式で実施しておりますが、その他、必要に応じて埋却作業や防疫拠点の運営などの役割を担当していただく部署に対しては個別に研修を行い、防疫措置について関係者の理解を深める取り組みをしています。



西部家畜保健衛生所全景

おわりに

山梨県には、ぶどうや桃などの美味しい果物と一緒に、甲州統一ブランド食肉「甲州牛・甲州ワインビーフ・甲州富士桜ポーク・甲州地どり・甲州頬落鶏」などの畜産物も楽しむことができます。本県にお越しの際は、これらを是非御賞味ください。

☆第66回全国家畜保健衛生業績発表会演題（青森県）

民間施設を活用した汚染物品の処理法の検討

青森県上北農林水産事務所中央家畜保健衛生所
武井 裕佳

1 背景

当所では、令和4年シーズンの高病原性鳥インフルエンザの多発を受け、埋却地の適地性を再確認した。その結果、管内農場の3割で、面積不足や地下水位が高いことなどから不適と判断された。

不適と判断された農場では飼養規模に応じた面積かつ湧水のない埋却地を新たに探しているが、土地取得手続きの煩雑さや周辺住民への説明など課題が

多く、確保に至っていないのが現状である。

このような中、令和6年10月に特定家畜伝染病防疫指針及び留意事項が一部改正され、農場からの問い合わせも多いことから、焼却及び化製処理による汚染物品の処理について検討を行った。

2 汚染物品の処理方法の検討

焼却及び化製処理の方法を検討するため、民間の焼却施設及び肉用鶏企業の所有する化製処理施設の活用を検証し、課題の抽出と対応策の検討を行った(図1)。

(1) 焼却処理

ア 焼却施設の概要

この施設は、民間企業が所有する施設で家畜の死体焼却の許可を有しており、3基の焼却炉を活用した焼却が可能で、クレーンのほか箱型のバケットリフターを用いた投入もでき、直径6m以内であれば投入・焼却が可能である。

イ 焼却時の荷姿の検討

鶏糞、飼料、防護服などは、フレコンバッグ(以下、フレコン)に入れ搬入することとした。

鶏死体、鶏卵は密閉式ポリパール(以下、パール)に入れ、フレコン内でパールを格子状に3段重ねとし、荷崩れ防止のためにフィルムで外周を固定した後、フレコンを閉じる方法で行った(図2)。

また、本県では、この焼却施設を含めパールを用いた鶏死体や鶏卵の焼却実績がないことから、埋却時の荷姿との比較とともに汚染物品の輸送・焼却について検証を行った。

ウ 試験時の荷姿及び輸送

① 鶏死体

今回の検証では鶏の死体の荷姿を以下の2種類とした(図3)。

1つ目は、パールに直接10羽の死鳥を入れ、(1)-イと同様にフレコンに入れたものとした。

2つ目は、埋却時と同様に、10羽の死鳥をいれた

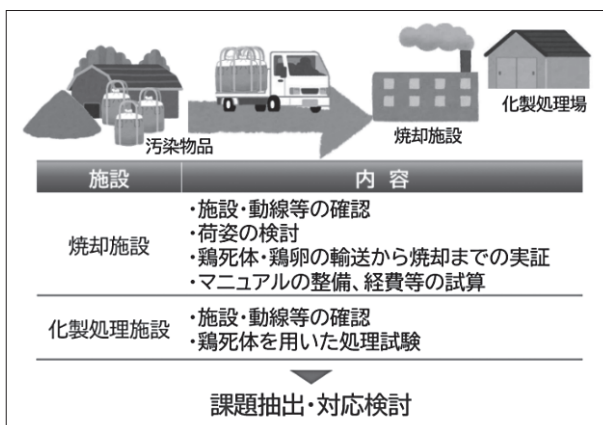


図1 具体的な検討内容

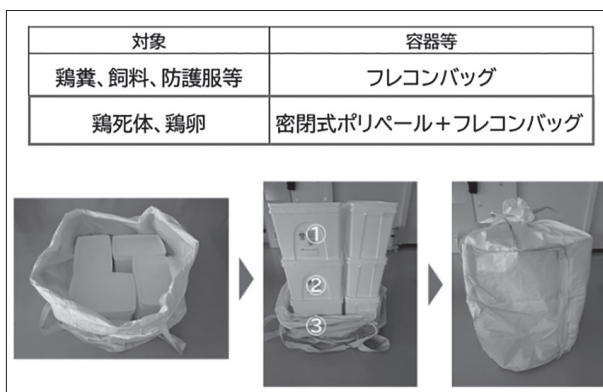


図2 焼却時の荷姿



図3 鶏死体の梱包

ポリ袋を結束バンドで縛り、フレコンに入れたものとした。

② 鶏卵

ビニール袋に破卵20kgを入れ、結束バンドで縛りパールに入れた。このパールを(1)-イで示した方法によりフレコンへ入れた。

③ 輸送方法

農場から焼却施設への移動は、発生時を想定し、指針に基づいたルートで輸送した。

エ 焼却炉への投入及び焼却灰の検証

今回は、クレーンを用いて焼却炉に投入した。投入時、鶏死体のフレコンに問題は見られなかったが、鶏卵についてはクレーンの圧で破損し卵液が流出した（図4）。

このことから、鶏卵の投入は、破損を防ぐためバケットリフターで投入することとした。

焼却終了後の灰には、容器や鶏・鶏卵の燃え残りは確認されなかった。

オ 運用マニュアルの作成

結果を踏まえ、発生時の作業内容や車両動線を記載したマニュアルを作成し、焼却施設と共有した。

また、併せて当所管内の最大規模の養鶏場での発生を想定した経費の試算も行った。

(2) 化製処理

ア 施設の概要

今回検討をした施設は、肉用鶏企業が所有し、通常は食鳥処理場から排出される羽毛や残渣を処理している。

羽毛は、145℃にまで加圧し、減圧までその温度を維持する。その後、図5に示す各過程を経て粉末状のフェザーミールが完成する。

イ 施設の懸念事項

工場を使用するにあたり、施設の構造、車両動線、汚染物品の保管場所などを確認し、発生時の車両動線について検討した。

また、この工場では鶏死体の処理実績がないことから、直径30cmの導管に死鳥が詰まらないか、加圧により温度が上昇・維持されるかが懸念された。これらを検証するため、死鳥を用いて処理試験を行った。

ウ 死鳥の処理試験

死鳥約700羽（約1t）を用いて行ったところ、投

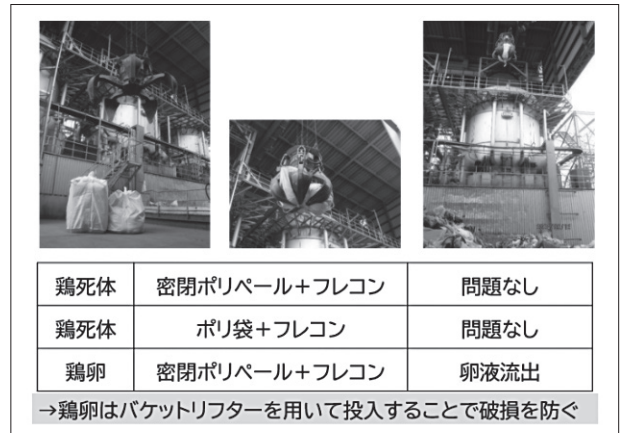


図4 検証の結果

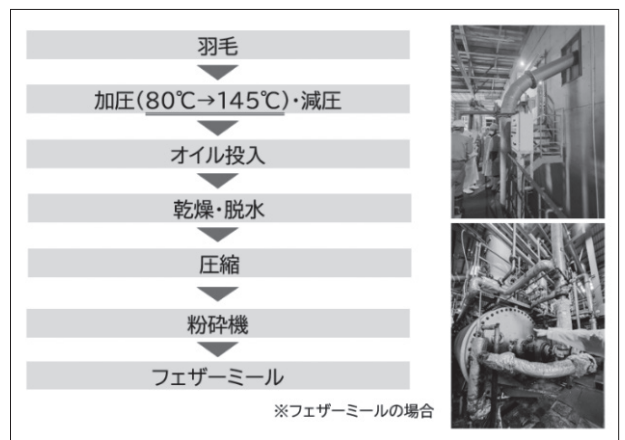


図5 化製処理工程（フェザーミール）

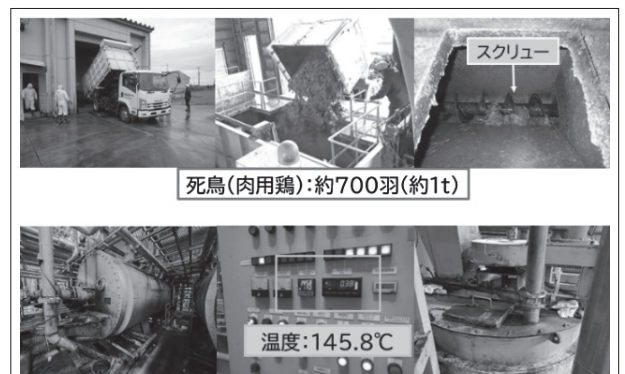


図6 化製処理試験

入後、加圧装置へ送るスクリューに死鳥が詰まることはなかった。

加圧後は温度上昇・維持することができ、その後の過程にも問題は認められなかった（図6）。

エ 成果物の比較

処理後、通常処理された販売用のチキンミールと

今回のものを比較したところ、同様の成果物であった(図7)。

温度は145℃まで上昇・維持され、材料が残ることなく処理されたことから発生時の鶏死体の処理に活用が可能であると考えられた。

オ 運用マニュアルの作成

結果を踏まえ、マニュアルを作成し、施設と共有した。

マニュアルには清浄区と汚染区を定め、汚染物品や生成物の動線や生成物の保管についても記載した。

死体投入時の病原体拡散防止対策として、投入前の死鳥への消毒薬散布や投入口の周囲をシートで覆うことを定めた。

また、化製処理に係る経費に加え、化製処理で処理出来ない飼料等を焼却や封じ込めで処理した際の経費を比較した。

3 処理方法の比較

汚染物品は、埋却及び焼却では全て処理が可能だが、化製処理では鶏死体のみとなり、その他は埋却または焼却での処理が必要となる(図8)。

資材については、埋却時はフレコンのみだが、焼却ではペール、化製処理では一時保管や輸送に用いる大型密閉容器が新たに必要となる。

処理時間に関しては、随時受入可能な埋却に比べ、焼却や化製処理は工場等の受入に制限があるため処理に時間を要する。

一方、埋却では埋め直しなど再処理の可能性があるが、焼却では不要となる。

化製処理後の成果物の処理については現在検討中だが、焼却した場合、その後の処理対応は不要となる。また、焼却や化製処理では経営再開時に埋却地の再確保が不要となる利点がある(図9)。

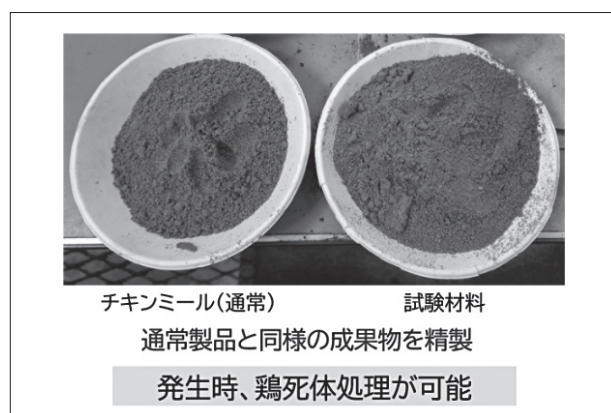


図7 試験成果物

	埋却	焼却	化製処理
県実績	○	×	×
処理可能な汚染物品			
鶏死体	○	○	○
鶏卵	○	○	×
鶏糞	○	○	×
飼料	○	○	×
防護服等	○	○	×
埋却または焼却			

図8 処理方法の比較①

	埋却	焼却	化製処理
必要資材	フレコンバッグ	密閉式ポリペール フレコンバッグ	大型密閉容器
受入体制	随時	制限	制限
処理時間	短	長	長
(鶏死体の処理量)	227t/日 ※殺処分スピードと同等	72t/日	60t/日
処理後の対応	再処理の可能性	不要	成果物の焼却 ※現在検討中
埋却地の再確保	必要	不要	不要

図9 処理方法の比較②

4 処理経費の比較

過去に県内で発生したブロイラー農場の汚染物品量をもとに処理経費を比較した(図10)。

埋却費と比較すると②で約1.8倍、⑤で約3.7倍と費用がかかる反面、③で0.4倍、④で約0.5倍となることがわかった。化製処理の活用で費用を抑えられる場合もあるが、成果物を焼却した場合、大幅に費用が増加することがわかった。

これらの結果から、焼却処理では経費が高くなる傾向にあるが、これは鶏死体の梱包資材に密閉式ポリペールを用いていること、処理費用が高いことなどが理由として挙げられる。

5 各処理方法の課題と対応

焼却及び化製処理のメリットとして、処理後の対応が不要、経営再開時に埋却地の再確保が不要などが挙げられる。

一方、デメリットとして、化製処理は鶏の死体しか処理出来ないこと、焼却では資材費及び処理費用が高額であること、処理日数が長いことが挙げられる。

このことから、殺処分の段階ごとに梱包方法を複数組み合わせた汚染物品の処理について検討を行った。

(1) 梱包方法の検討

ペールの使用により焼却時の資材費が高額になるため(図11)、防疫措置の初期段階はフレコンで搬入し、焼却の進捗状況に応じてペールを使用する方法に換えることで資材費を抑えることが可能と考えた。

しかし、この方法では動員者の混乱を招く可能性があることから、動員者への事前の資料配布及び説明が必要と考える。

(2) 処理方法の併用

最大規模の農場で複数の方法による汚染物品の処



飼養形態:ブロイラー 10.8万羽(県内過去発生農場) 汚染物品:合計 891t(鶏死体 324t 飼料 8t 鶏糞+敷料 559t)					
	①	②	③	④	⑤
	埋却	化製 焼却	化製 封込	化製 焼却 封込	焼却
鶏死体	●	●	●	●	●
飼料	●	●	●	●	●
鶏糞+敷料	●	●	●	●	●
費用	基準	約1.8倍	約0.4倍	約0.5倍	約3.7倍

図10 処理経費の比較



課題に対する対応策	
鶏死体	鶏卵
密閉式ポリペール+フレコン 54,878円/袋	63,602円/袋
ポリ袋+フレコン 19,127円/袋	(4,587円/袋)
防疫措置の段階に合わせて梱包方法を変更	
動員者が混乱する可能性	
事前に梱包方法を記載した資料配布が必要	

図11 梱包方法の検討



飼養形態:採卵鶏 63万羽、汚染物品:合計 1,707t
(鶏死体 1,575t 鶏卵 95t 飼料 534t 防護服等 37t)

※鶏糞は封じ込めを想定

埋却のみ	焼却のみ
処分日数 約14日 ※殺処分日数をもとに計算	約90日

埋却	焼却	化製処理
処分内容 飼料・防護服等	鶏卵	鶏死体
処分日数 約14日	約8日	約27日

→複数の処理法併用による処理期間の短縮可能

図12 複数処理方法の検討

理を検討したところ、試算では焼却のみの処理で約90日必要だが、飼料・防護服等を埋却、鶏卵は焼却、鶏死体を化製処理とすると約27日で処理が可能なおことから(図12)、複数の処理方法を併用することで短期間で処理を完了させることができると考えられた。

6 まとめ

今回、焼却及び化製処理施設の現地確認と各種実証を行い、発生時の汚染物品の処理に利用可能であることがわかった。本県は汚染物品の処理を基本的に埋却としているが、焼却や化製処理をその実情に

合わせて併用することで処理の時間短縮や防疫措置後の問題回避につながると考えられた。

今後はこれらの方法の運用に向け、関係機関と連携し具体的な協議を行うと共に、対応について検討していきたい。

☆動物用医薬品再審査結果通知（令和8年10月）

製剤名	申請会社名	承認日	期間終了	再審査結果 通知番号	再審査結果 通知日	備考 (当該再審査が 係る承認事項)
パナミン ペースト	MSD アニマルヘルス 株式会社	H26年10月6日	R2年10月5日	2動薬第2646号	R8年10月2日	—

通信

10月に入り関東ではようやく晴れ間が見られる日が出てきました。東京では連続降雨が37日を記録したとのことで9月は毎日雨が降ったことになります。この夏、台風も含め各地で激しい豪雨による被害があり、各地で農作物や畜産、水産への影響が生じました。小職の居住地千葉でも短期間に繰り返した豪雨によって房総地域ではところどころで道路を土砂が塞ぎ一部地域で電車の復旧に時間を要している状況で生活インフラや交通インフラの早期復旧が望まれます。10月4日（日）は愛玩動物看護師国家試験「予備試験」（第5回）の実施日でした。愛玩動物看護師法の施行前から犬猫の診療をサポートされている方々等が愛玩動物看護師試験の受験資格を得るための機会として予備試験は5年間実施することとされています。犬猫の獣

医療が高度化するなか、愛玩動物看護師は飼い主と獣医療をつなぐ役割だけでなく、人とペットの適切な関係性の指導役としての役割を担います。予備試験の合格者には来年2月に予定されている本試験をクリアし、獣医療現場において益々活躍されることを期待しています。

毎週月曜日発行

家畜衛生週報

編集・発行：農林水産省消費・安全局

畜水産安全管理課、動物衛生課

☎03(3502)8111 内線 4581

〒100-8950 東京都千代田区霞が関1-2-1